

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度		科目名	建築史	
科目基礎情報							
開設学科	建築学科		コース名			開設期	後期
対象年次	2年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位					授業形態	講義
教科書/教材	教科書：コンパクト版建築史【日本・西洋】／毎回資料を配布						
担当教員情報							
担当教員	三矢 雅人			実務経験の有無・職種	有・建築設計		
学習目的							
日本建築史・西洋建築史・近代建築史の概要を系統的に学習することで、建築史の基本知識を学ぶ。そして、その知識を将来の仕事で"アイデア"を膨らませるための「土台」として役立つことを期待する。また「先人たちの取り組み」を映像などを通して紹介することで、建築に取り組む姿勢を見つめなおすと共に、建築家の歴史背景なども意識する。							
到達目標							
建築の「基本情報の引き出し（＝インデックス）」としての知識を身に付けることが目標である。さらに、日本建築史・西洋建築史・近代建築史の概要を学習することで二級建築士の試験対策を兼ねる。また、過去の事例に触れることで「建築」をつくる人々の「知恵」や「ころざし」「技術」などの部分についても学ぶ。							
教育方法等							
授業概要	この授業では、教科書に併せて「配布プリント」を中心に進める。 建築を知らない学生でもわかるように、写真や映像を使って進めるが、知識は漠然と聞いているだけでは身に付かないので、プリントに各自が記入しながら行なう。積極的に配布プリントなどに書き込み、知識や技術を身につける。						
注意点	毎回、必ず「配布プリント」を持参すること。 平常点を重要視するので、毎回出席し、授業中は配布プリントに書き込むことを心掛けること。 遅刻や欠席をしないこと。やむを得ず欠席した場合は、担当教員のいる時にプリントを受け取って、自分で学習すること。 なお、下記のスケジュールは、授業の進行状況や学生の習熟度状況によって変更することがある。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	50%	知識の習得度を確認するために、期末試験で評価を行う				
	平常点	50%	配布プリント(＝確認用)の記入状況を評価、授業参加度、授業態度による評価				
授業計画（１回～１５回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
１回	ガイダンス／近代建築史①		授業の注意点／近代建築史の基本知識				
２回	近代建築史		近代建築史の基本知識				
３回	近代建築史		近代建築史の基本知識（３人の重要な建築家）／「落水荘」の設計意図				
４回	近代建築史		近代建築史の基本知識（３人の重要な建築家）／「西洋美術館」の設計意図				
５回	近代建築史		近代建築史の基本知識（３人の重要な建築家）				
６回	日本建築史		日本建築史の基本知識 縄文～平安				
７回	日本建築史		日本建築史の基本知識／現代の技術と五重塔の技術、建築のアイデア				
８回	日本建築史		日本建築史の基本知識 飛鳥～平安、中世				
９回	日本建築史		日本建築史の基本知識 近世 桃山～江戸				
１０回	日本建築史		日本建築史の基本知識／桂離宮の修復にたずさわった人々				
１１回	日本建築史		日本建築史の基本知識 近代～現代 住宅史				
１２回	西洋建築史		西洋建築史の基本知識 古代ローマ、中世				
１３回	西洋建築史		西洋建築史の基本知識 ロマネスク、ゴシック				
１４回	西洋建築史		西洋建築史の基本知識 ルネサンス、バロック、１８・１９世紀				
１５回	西洋建築史／まとめ		西洋建築史の基本知識 ２０世紀 ／ 全体のまとめ				